



CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



ルサカ州保健局のシムルヤマナ・チョオンガ局長とJICAザンビア事務所の泉恵太氏が、手術部位感染(SSI)サーベイランス・ガイドラインおよび標準作業手順書(SOP)のローンチ(お披露目会)でテープカットを行う様子(2025年8月22日)

ザンビア保健省、
手術部位感染(SSI)
ガイドラインと標準
作業手順(SOP)を
全国にお披露目

病院事務長と計画
担当者が戦略的プ
ランニングのオリ
エンテーションで
集う

日本の国会議員団、
カニヤマ一次レベ
ル病院を視察

第3四半期 ルサ
カ州感染予防管理
(IPC)会議を開催

カフエ総合病院、
感染予防管理
(IPC)研修を
開始へ

ザンビア保健省、手術部位感染(SSI)ガイドラインと標準作業手順(SOP)を全国にお披露目

ザンビア保健省(MOH)は、JICAカシオペア・プロジェクトの支援を受け、2025年8月22日、ルサカ市のインターベンチナルホテルで『手術部位感染(SSI)のガイドラインと標準作業手順書(SOPs)』をローンチしました。このガイドラインは、全国の州や郡等の一次、二次、三次病院に加え、民間病院も対象とし、症例同定の基準、データの収集と報告の手順を定めることを目的としています。

式典には、保健省技術担当次官であるケネディ・リシンピ氏の代理として出席したルサカ州保健局(LPHO)のシムリヤマナ・チョオンガ局長をはじめ、ルサカ郡保健局(LDHO)のアストリダ・マセカ保健サービス局長、そして在ザンビア日本国大使館とJICAザンビア事務所の代表者が列席しました。

チョオンガ局長は、保健大臣に代

わって発言し、2023年と2024年にルサカ郡の5つの一次レベル病院で始まったSSIサーベイランスが、感染の根本原因の特定・分析や予防策の実施を後押ししてきたことを紹介しました。2023年5月から2024年4月までに収集されたデータでは、SSIの全体発生率は2.81%、帝王切開では3.62%と報告されています。これらの数値は、すでに日常診療で重点的な介入策の立案に用いられており、今後は、医療従事者による地域でのモニタリングや追跡調査と組み合わせることで、さらに強化されていく予定です。

チョオンガ局長は、グローバルな感染予防管理(IPC)戦略やユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)、IPCのベストプラクティスに沿ってガイドラインを作成した専門家たちに感謝を述べました。さらに、この文書は変革



ローンチ(お披露目)後にSSIガイドラインを手に取る主賓席の来賓たち(2025年8月22日)

のためのツールであり、SSI管理を標準化し、公立・私立を問わず医療施設全体で患者と医療従事者の安全を高めるために活用されるだろうと語りました。チョオンガ局長はあわせて、ザンビア政府（保健省）が継続的な改善に取り組む姿勢を持っていることを強調し、ガイドラインも新たな知見や革新を取り入れるために定期的に見直されると説明しました。最後に、技術協力に加え、資料の印刷と配布を支援してくれたJICAの継続的な協力に謝意を示し、全国の医療従事者と病院管理者に対し、ガイドラインを積極的に受け入れ、実施するよう呼びかけました。

JICAザンビア事務所の代表者は、SSIガイドラインのローンチは院内感染削減に向けた大きな節目であると述べました。カシオペアプロジェクトを通じて、感染予防管理(IPC)の標準手順やSSIサーベイランスの報告体制が整備され、医療施設における感染管理の

実践強化と医療の質・安全に寄与してきたことを強調しました。このガイドラインは、保健省(MOH)、ルサカ州保健局(LPHO)、ルサカ郡保健局(LDHO)、そしてプロジェクトの対象5病院の共同の成果であり、SSI予防に対する彼らの強いコミットメントを示すものだと述べました。最後に、このガイドラインの実施は、全国の医療施設における医療の質と患者ケアの継続的な向上につながると期待されると結びました。

カシオペア・プロジェクトでは、3月の大蔵署名以降、保健省と協力してSSIガイドラインのローンチの準備を支援してきました。当初は6月開催を予定していましたが、延期を経て8月に無事実現できたことを大変喜ばしく思います。

今後は、ルサカ州保健局がザンビア国立公衆衛生院(ZNPHI)や開発パートナーと連携し、ガイドラインの州内展開を進めていく予定です。



SSIガイドラインのローンチ(お披露目)参加者による集合写真(2025年8月22日、ルサカ・インターコンチネンタルホテルにて)

病院事務長と計画担当者が戦略的プランニングのオリエンテーションで集う

2025年8月19日から21日にかけてルサカ郡保健局(LDHO)が開催した中期予算計画(MTBP)会議を受け、ルサカ郡の5つの一次レベル病院(チャワマ、チレンジエ、チパタ、カニヤマ、マテロ)に加え、バウレニ・ミニ病院、チャルストン・ミニ病院、ルサカ州保健局の計画担当者と評価担当者、ルサカ郡保健局の計画担当部の職員が集まり、2025/2026年度の病院予算編成に向けて、戦略的プランニングとバランスト・スコアカード(BSC)の活用に関するオリエンテーションを行いました。

BSCは、ザンビア政府が2015年以来すべての省庁に導入しているマネジメントツールです。行政では長期的な戦略策定に用いられますが、病院ではそれを改良し、業務で直面する課題に効果的に対応する戦略を導き出し、問題解決ス

キルを高めることを可能にします。

ルサカ郡保健局(LDHO)の主任計画担当であるルース・ズル氏は、この4日間のオリエンテーションは病院の予算編成を適切に行うための考え方を計画担当と病院事務長に浸透させるとともに、予算の実施状況を追跡するモニタリングツールの活用方法を共有するために開催されたと述べました。さらに参加者に対し、病院のビジョンとミッションに沿った明確な戦略目標を設定するよう求め、「戦略目標はフィードバックと議論に基づくべきであり、コピー＆ペーストの予算編成をしてはならない」と強調しました。

8月26日から29日にかけて、参加者は各施設の目標に基づく予算(OBB)にモニタリングツールを組み込みながら、BSCの策定演習に取り組みました。次年度に達成すべき全体目標を



発表を行うルサカ州保健局(LPHO)上級プランナーのバロイ氏(写真左)。右はルサカ郡保健局(LDHO)上級プランナーのズル氏とプランナーのシカピズイエ氏。

明確にし、そのための戦略、進捗を測定する主要業績評価指標(KPI)、目標達成のための具体的な行動計画、そして各目標の責任者を定めました。

JICAカシオペアプロジェクト・チーフアドバイザーの村井真介氏は、参加者は普段計画立案を行っているこの分野の専門家だが、このオリエンテーションを通じて、計画立案の質を高めることができる、と参加者を激励し、積極的な参加を促しました。

閉会にあたり、LDHOの臨床ケア専門官であるチョールウェ・シアンチャバ氏は、積極的に参加した参加者に謝意を示しました。さらに、病院の計画担当や事務長がベストプラクティスを共有し、課題解決に協力できるよう、ルサカ郡保健局(LDHO)の計画担当部門に対してこのような会議を定期的に開催するよう求めました。また、ミニ病院も他の病院にならって計画プロセスにBSCを導入するよう促しました。

このオリエンテーションの準備には、6月にチエルストン・ミニ病院で実施された戦略的プランニング研修が参考になりました。本誌6月号では、2023年に国別研修(KCCP)に参加し、その後にチエルストン・ミニ病院へ異動、ザンビアJICAフェローシップ協会(ZAJIFA)の支援を得て、戦略的プランニングの導入に取り組んだカネクワ氏(現チパタ病院)の事例を紹介しています。

今回のプログラムは、ルサカ州保健局と郡保健局の呼びかけで、チエルストン・ミニ病院の研修デザインに携わった有志も参加し、検討されました。戦略的プランニングの研修は、内閣府、ルサカ州保健局、チエルストン・ミニ病院での実施を経て、より簡潔で実践的な内容へと発展しており、プロジェクト成果の継続につながることが期待されます。



ファシリテーターと意見交換するチパタ病院のアシスタントプランナーと病院事務長。

日本の国会議員団、カニヤマ一次レベル病院を視察

2025年8月11日、日本の国会議員団が、グローバルファンドとJICAの事業の合同視察の一環としてカニヤマ一次レベル病院を訪問し、同施設で行われている活動について理解を深めました。視察には、グローバルファンド、ザンビア国立公衆衛生院(ZNPHI)、JICAの職員も同行しました。

病院長のジェームズ・ニレンダ氏は、カニヤマ病院が小規模な医療施設から、帝王切開、婦人科、一般外科などの専門治療を提供できる病院へと発展してきた経緯を説明しました。施設の格上げにより、地域住民は大学教育病院(UTH)に紹介されることなく、地域内で治療を受けられるようになり、地域の健康が大きく改善したと述べました。さらに、チャワマ、チレンジエ、チパタ、カニヤマ、マテロの5つの一次レベル病院がより複雑な症例に対応できるようになったことで、UTHへの紹介患者の負担も半分以上減少したと指摘しました。

会議に出席した部門長らは、「このJICAカシオペア・プロジェクトのチ

ーフアドバイザーである村井真介氏は、2021年から同施設で進めてきたプロジェクト活動について説明しました。プロジェクトが重点分野としている4つの領域である①病院ガバナンスとマネジメント体制の強化、②感染予防管理(IPC)、③必須医薬品・医療物品(EMMS)の在庫管理、④医療機器の適切な管理・保守の説明に加えて、特にグローバルファンドの支援とも関係のある医療機器管理について。各部門から選ばれた医療機器チャンピオンが、医療機器部門と所属部門をつなぎ、機器の不具合監視や予防保全を担っていることを紹介しました。

続いて、グローバルファンドが支援する地域ボランティアの活動が、ボランティアと地域住民の声とともに紹介されました。感染症対策のためのラボサーベイランス強化プロジェクト(SATREPS)のチーフアドバイザーである今村氏は下痢症サーベイランスと2024年のコレラ流行における取り組みについて詳しく説明しました。



薬局保管庫の説明を聞く国会議員団。



議員団のカニヤマ一次レベルへの訪問を歓迎するニレンダ病院長。

その後、ニレンダ病院長とカニヤマ病2025年8月5日、JICAカシオペア・プロジェクトの感染予防管理担当がカフ工総合病院(KGH)を訪問し、同院で研修を予定している感染予防管理(IPC)チームに対し、プロジェクト活動の情報共有と研修資料の提供を行いました。

医療機器技師のポール・シバンダ氏は、各部門に配置された医療機器チャンピオンが、自部門と医療機器部門をつなぎ、故障機器の報告や維持管理を担う取り組みについて紹介しました。検査室部門長も、グローバルファンドから提供された各種機器を視察団に示し、その機能と保守管理の現状を説明しました。

最終年を迎える中、プロジェクトにはOECD開発援助委員会(Development Assistance Committee: DAC)の6項目による評価が控えています。

その中でも、2021年に追加された「Coherence(整合性)」は、今回のグローバルファンド視察で示されたように、他パートナーとの連携のあり方も問う重要な視点です。

グローバルファンドが地域ボランティアの人員確保を支援していることは、プロジェクトが医療機器管理の分野で共に活動している対象病院の臨床工学技士(Biomedical Engineer)が、同基金によって雇用されている事実と重なります。これは、グローバルファンドがこの職種にも将来性を見いだしていることを示すものです。

国際機関や二国間援助、国内行政による強みを活かした協働が相互補完的に機能することで、日本や他のパートナーによるザンビアへの支援の効果と持続性が一層高まっていくことが期待されます。



集合写真(日本の代表団、カニヤマ一次レベル病院、ザンビア国立公衆衛生院(ZNPHI)、JICAザンビア、グローバルファンド、カシオペアプロジェクト関係者)。

第3四半期 ルサカ州感染予防管理(IPC)会議を開催

2025年8月15日、ルサカ州保健局(LPHO)で感染予防管理(IPC)に関する四半期会議が開催されました。ルサカ郡の5つの一次レベル病院(チャワマ、チレンジエ、チバタ、カニヤマ、マテロ)に加え、大学教育病院(UTH)の小児病院、成人病院、新生児病院のチームも参加しました。

この四半期会議は、JICAカシオペアプロジェクトと協働する5病院にとって、IPCや手術部位感染(SSI)サーベイランスに関するグッドプラクティスを共有するとともに、直面する課題を持ち寄り、互いにフィードバックを得る場となっています。

今回の第3四半期会議では、周術期での活用を目的としたSSIチェックリストの使用が主な議題となりました。このチェックリストは、SSI予防の観点から手術患者の管理状況を追跡するためのツールとして試行を開始したものです。

多くのチームは、チェックリストが一部の部門では使われているものの、十分に活用されていないと報告しま

した。質疑応答では、利用率を高める方法として、同意書とチェックリストの統合、主要部門のスタッフへの再オリエンテーションの実施、さらにチェックリストが未記入の患者は受け入れないといった提案が出されました。

また、病院ごとに形式が異なる同意書を標準化することも提案され、行動計画に加えられました。カシオペアプロジェクト・チーフアドバイザーの村井真介氏は、SSIサーベイランスガイドラインのローンチが8月22日になされれば、ここに集う5つの一次レベル病院は、その実践を担うモデル病院として期待されるでしょう。2026年度予算にIPC活動を組み込み、一層強化する方法を検討してほしいと促しました。

ルサカ州保健局の主任環境保健官であるキャセル・チボーラ氏は、SSIの結果を確実に記録し、ゼロ件と報告している施設についてはデータを精査するよう求めました。さらに、IPC活動の継続的な連携の重要性を強調し、カシオペアプロジェクトを通じたJICAの継続的支援に感謝を示しました。



発表を行うチバタ病院IPC看護師のムーノ・シモコ氏。



閉会の挨拶をするルサカ州保健局主任環境保健官のキャセル・チボーラ氏。

カフ工総合病院、感染予防管理(IPC)研修を開始へ

2025年8月5日、JICAカシオペアプロジェクトの感染予防管理担当がカフ工総合病院(KGH)を訪問し、同院で研修を予定している感染予防管理(IPC)チームに対し、プロジェクト活動の情報共有と研修資料の提供を行いました。

出席者は、シュラ・チャンダ病院長、グロリア・リショムワ・モヨ氏(看護師)、イダ・ムティンタ・ハベラ氏(IPC看護師)、病院管理者代行兼環境保健技術者(EHT)のモーリーン・ムマ氏、IPCドクターのクリスピン・ハマインダ氏、そして薬剤師のマリー・トウェラ・テンボ氏でした。

チャンダ病院は、かつてチャワマ病院の院長を務めた人物でもあります。プロジェクトからは、感染予防管理の技術協力を担当する萩原悠氏、ニャンガ美知子氏、コンベ・カパタモヨ氏が参加しました。

会議の目的は、プロジェクトが2021年5月以来支援してきたルサカ郡の5つの一次レベル病院(チャワマ、チレンジエ、チパタ、カニヤマ、マテロ)で実施されたIPC、手術部位感染(SSI)、薬剤耐性(AMR)研修について、カフ工総合病院のIPCチームと情報を共有することでした。情報共有の中で、チャワマ病院は、IPC委員会の会合で医療従事者(HCW)や補助スタッフの間にIPC、SSI、AMRに関する知識や理解が不足していることが明らかとなり、その結果、IPCの標準遵守が不十分であることが確認され、同院で最初に研修が実施されたことが共有されました。職員の知識や理解の不足に対応するため、IPCチームと病院経営陣は、すべての医療従事者を対象とした包括的なIPC研修を行うことを提案したのでした。



カフ工総合病院のシュラ・チャンダ病院長(中央)、同病院のIPCチームとJICAカシオペアのIPC担当チーム。

チャンダ病院長は、カフエ総合病院のIPCチームへ情報提供を行ったカシオペアプロジェクトチームに感謝の意を表し、同院IPCチームに対して看護師や医師など臨床スタッフへのSSIガイドラインとSOPの周知を始めるよう求めました。さらに、病院として全職員を対象にIPC、SSI、AMRのプロトコルに関する正式な研修を実施する方針を示しました。

プロジェクト側は、研修のプログラムや講義資料、必要経費、そして研修後に現場で活用できるツールについて説明しました。このような情報提供は、7月にも、ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、チェルストンミニ病院、バウレニミニ病院で実施されています。

このような取り組みの背景には、SSIガイドラインのローンチが控えていることがありました。ローンチ後は、ルサカ州内での円滑な普及展開が

期待されており、その対象にはカフエ総合病院をはじめとする周辺病院も含まれます。また、現在プロジェクトで作成中の『病院マネジメントハンドブック』の対象には総合病院も含まれており、州内で唯一の総合病院であるカフエ総合病院との協力は、これまで積み上げてきた実践を広く展開する上でも欠かせません。

周辺病院への普及を進める上で重要な役割を担うのは、郡保健局や州保健局です。プロジェクトの直接対象は5つの一次レベル病院に限られますが、そこで得られたグッドプラクティスは、郡保健局や州保健局の主導により所管病院へ拡げていくことができます。

今後は、今回提供した情報を基に、郡保健局や州保健局が所管する病院へ普及展開できるIPC研修モジュールとなるよう引き続き支援していきます。



研修中のアイスブレイクに参加するIPCチーム。

PHOTO FOCUS



SSIガイドラインのお披露目を祝う伝統舞踊。



ルサカ郡保健局によるプランニング・オリエンテーションで閉会の挨拶をするチョールウェ・シアンチャパ臨床ケア専門官。



第3四半期州IPC会議で発言するカシオペアプロジェクト・チーフアドバイザー。



地域のサーベイランスと健康推進について日本代表団に説明する地域ボランティア。



SSIガイドラインのローンチにてSSIサーベイランスの導入時の取り組みを発表するIPC担当医師のイルンガ・ムトウフレ氏。



カフ工総合病院でのIPCチーム研修(IPC・SSI・AMR)。



5回目のIPCラウンドを行うチレンジエ病院IPCチーム。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 萩原 悠

編集長: 村井 真介

連絡先

**村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー**

**住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA**

Cell: +260 765 192 865 (official)